# 寄り添う医療、拓く研究



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター
Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology



理事長

## 秋下雅弘

東京都健康長寿医療センターは病院と研究所から成り、当病院のモットーは「患者さんとご家族に喜ばれる医療」の実現です。当院は、血管病(脳卒中、心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患)、がん、認知症、糖尿病の治療に力を入れており、高齢者によくみられる救急医療の問題もこの中に含まれます。これら4つの柱に加えて、骨・関節疾患、腎臓病、感覚障害(白内障、難聴)、肺疾患など、高齢者の一般的な疾患に対する高度な医療を提供することにも力を入れています。当院は、人口200万人の東京都の区西北部二次医療圏において、地域医療モデルを構築しながら、高齢者向けの高度専門医療を提供しています。当センターは都内唯一の高齢者専門高度医療センターとして、高齢者にどこまで高度な最先端医療を提供できるか、そして最先端医療を提供した結果どのような成果が得られるのかを常に検証していく必要があります。また、高齢者に優しい低侵襲医療を可能な限り取り入れて、高齢者の「健康で幸せな」未来を拓いていくことも私達の重要な使命と考えています。

当研究所では、高齢者に多い認知症やフレイル、サルコペニアなどの老化や老化疾患のメカニズムを解明し、予防・早期発見・治療に役立てています。また、コホート研究で高齢者の日常生活や健康に関するさまざまなデータを収集することで、認知症やフレイルをテーマとした次世代の高齢者医療・介護に関連する研究も積極的に進めています。当センターは、日本の高齢社会を担う専門病院・研究所であり、その研究成果をもとに、持続可能な長寿社会を構築する仕組みをつくる重要な役割を担っています。

全国の高齢化は益々進みますが、東京など大都市部の高齢化はこれから顕著になります。当センターは、高度な病院・研究所であるだけでなく、研究所と病院が一体となって地域の高齢者の健康増進を図る総合センターでもあります。また、加齢や疾患に伴う生活の質(QOL: quality of life)や日常生活動作(ADL: activities of daily living)の低下およびフレイルや認知症などの予防、早期発見、治療にも病院と研究所が連携しており、「健康長寿イノベーションセンター」「認知症未来社会創造センター」「フレイル予防センター」の3つのプロジェクトを推進し、認知症やフレイルの兆しに関わらず、誰もが希望や尊厳を持って暮らせる社会の実現を目指しています。

1872年に渋沢栄一が創設した「養育院」を母体に、150年以上にわたり日本の高齢者の福祉と医療の進歩に当センターは貢献してきました。その歴史を踏まえて、「寄り添う医療、拓く研究」をキャッチフレーズに、私達は一丸となって高齢社会の課題を積極的に拾い上げ、患者さんや都民の明日をより良くするための解決策を積極的に見つけていく責任のある病院および研究機関を目指して地道な努力を重ねてまいります。



センター長

## 神﨑恒一

東京都健康長寿医療センターは、病院と研究所の二つの機能を併せ持つ、高齢者医療と研究の拠点です。

病院では、内科系12診療科に加え、骨粗鬆症外来、フレイル外来、ポリファーマシー外来など、高齢者に特有の課題に対応する専門外来を設置しています。内科系12診療科には緩和ケア内科も含まれており、外来・病棟の両面から地域との連携を大切にした診療を行っています。外科系診療科では婦人科を除く11診療科を備えており、広く地域の患者さんを受け入れる体制を整えております。そのほか、血管病センター、認知症センターではアルツハイマー病に対する抗体薬治療を数多く行っています。

フレイル外来は、当センター独自の特色ある外来であり、要介護状態への進行予防や、安全な手術・治療につながる身体機能の維持・向上を目的として、多面的な支援を行っています。また、ポリファーマシー外来では、多剤服用や服薬管理に課題を抱える患者さんに対し、より安全で適切な薬物療法を提案しています。

理事長のご挨拶にもありますように、当センターでは、「高齢者に対して、どこまで高度かつ安全な医療を提供できるのか」という課題に真摯に向き合い、既存のエビデンスを活用するだけでなく、新たなエビデンスを創出しながら、高齢者医療の発展に取り組んでいます。健康長寿の実現はもちろんのこと、たとえ疾病や身体的課題を抱えていても、その人らしく充実した人生を送ることができるよう支援することを、私たちの使命と考えています。

研究所では、病院と密接に連携しながら、認知症、フレイル、サルコペニアなど、高齢者に特徴的な課題について、発症機序の解明から予防、早期発見、治療法の開発に至るまで、幅広い研究を推進しています。

研究所には、自然科学系と社会科学系という二つの大きな柱があります。自然科学系では、高齢者特有の病態の解明や新規治療法の開発を中心に研究を進めています。一方、社会科学系では、大規模コホート研究を通じて高齢者の生活や健康に関する多様なデータを蓄積し、次世代の医療・介護に資するエビデンスの創出などに力を注いでいます。

このように、自然科学系研究と社会科学系研究の両輪によって、日本が直面する超高齢社会の課題に正面から取り組んでいることが、当センターの大きな特徴です。

さらに、「健康長寿イノベーションセンター」「認知症未来社会創造センター」「フレイル予防センター」「健康長寿医療研修センター」といった、病院と研究所を結ぶ部門横断センターを有している点も、当センターならではの強みです。

私どもの取り組みにご関心をお持ちいただけましたら、ぜひホームページをご覧ください。

今後とも、伝統ある東京都健康長寿医療センターへのご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



# 病院の概要

## ■病院の運営方針

○患者さま本位の質の高い医療サービスを提供します。
○高齢者に対する専門的医療と生活の質（QOL）を重視した全人的包括的医療を提供します。
○地域の医療機関や福祉施設との連携による継続性のある一貫した医療を提供します。
○診療科や部門・職種の枠にとらわれないチーム医療を実践します。
○高齢者医療・フレイル予防を担う人材の育成及び研究所との連携による研究を推進します。

## ■診療内容

**診療規模**　医療法定床　550 床（一般 520、精神 30）

**診療科目**

【内科系】総合内科・高齢診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科・透析科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器・内視鏡内科、脳神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科
【外科系】消化器・一般外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
【中央診療部門】救急・集中治療科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、臨床検査科、輸血・細胞療法科、病理診断科
【専門外来】フレイル外来、もの忘れ外来、骨粗鬆症外来、高齢者いきいき外来など各種専門外来を開設

**指定医療機関（一部抜粋）**

地域医療支援病院
救急指定病院（救急告示病院）
東京都認知症疾患医療センター（地域拠点型）
東京都がん診療連携協力病院
東京都災害拠点病院
紹介受診重点医療機関
指定自立支援医療機関（更生医療・精神通院医療）
難病医療費助成指定医療機関
臨床研修病院
臨床修練指定病院　他

**救急体制**

東京都指定二次救急医療機関（休日・全夜間診療事業実施）
東京都 CCU ネットワーク
急性大動脈瘤スーパーネットワーク
脳卒中急性期医療機関（血栓回収療法実施医療機関）





# 病院の使命

東京都健康長寿医療センターは、急速な高齢化が進展する中で、高齢者医療に対するニーズはますます多岐にわたっており、高齢者専門の医療機関として、その機能の充実を図っています。

保健医療計画をはじめとする、東京都の方針を踏まえつつ、重点医療である「血管病医療」「高齢者がん医療」「認知症医療」「高齢者糖尿病医療」の提供や救急医療の強化、地域連携の推進などを図るとともに、高齢者の急性期医療を担う病院として、高齢者の生活の質の確保、健康の維持・増進に貢献していきます。

## 部門横断センター　病院と研究所が共同で運営し、研究の推進や人材育成に取り組んでいます。

### 健康長寿イノベーションセンター
（Healthy Aging Innovation Center: HAIC）

高齢者医療・研究の拠点としての特色を生かし、数多くのイノベーションを創出し、健康長寿社会の実現に貢献していくため、2018年８月に発足しました。薬機法、臨床研究法、人を対象とした生命科学医学系指針などの法令/指針を遵守して、適切に臨床試験/研究を実施していくため、多職種スタッフの協働によって当センターでの臨床研究支援を行っています。

### 認知症未来社会創造センター
（Integrated Research Initiative for Living Well with Dementia：IRIDE）

認知症の「共生」と「予防」において、病院と研究所が協働して統合的データベースを構築し、多様なイニシアチブと連携した共同研究を推進するため、2020年４月に発足しました。予防、診断、治療、ケア、教育、地域づくり、政策づくりに関わる新たな技術や戦略の開発を進めます。

### フレイル予防センター
（Center for Comprehensive Care and Research on Prefrailty：CRP）

医療、介護、福祉が連携し、病院と地域で一体化したフレイル対策を行うことで、高齢者の健康寿命の延伸を図る目的で、2020年4 月に発足しました。地域のフレイル予防、フレイル対策の人材育成、フレイル評価による高齢者医療、フレイルの機序や危険因子の解明を行っています。

### 健康長寿医療研修センター
（Innovative Comprehensive Multi-disciplinary Education：ICOME）

センター全体において、最新の老年学・老年医学の教育を担うため、2022年９月に発足しました。地域のフレイル予防や認知症サポートに関わる人材育成も推進しており、独自の研修システムの開発を行っています。







## 研究所の概要

### ■研究所の運営方針

○東京都の高齢者医療・保健・福祉行政を研究分野で支えます。
○地域の自治体や高齢者福祉施設と連携して研究を進めます。
○国や地方公共団体、民間企業等と活発に共同研究を行います。
○諸外国の代表的な老化研究機関と積極的に研究交流を行います。
○最先端技術を用いて老年病・認知症などの研究を行います。
○研究成果を公開講座や出版によりみなさまに還元します。

### ■沿　革

1972（昭和47）年４月　都立の東京都老人総合研究所として設置
1981（昭和56）年10月　財団法人東京都老人総合研究所に改組
2002（平成14）年４月　財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団東京都老人総合研究所に改組
2009（平成21）年４月　地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター研究所に改組

## 研究内容

### 自然科学系

#### 老化機構研究チーム

老化および認知症、サルコペニア、がんなど加齢・老化関連疾患のメカニズムの解明とバイオマーカーの同定、予防・治療法の開発を目指しています。糖鎖(分子機構)、タンパク質(プロテオーム)、ホルモンと健康長寿・高齢者がん(システム加齢医学)を柱とした基礎研究からこれからの高齢者医療に貢献します。

#### 老化制御研究チーム

老化の機構を明らかにして日常生活に制限のない期間、すなわち健康寿命を延伸させるための方法論をエビデンスに裏打ちされた科学的根拠に基づいて開発することを目指しています。私たちの解明した科学的成果は老化を制御することばかりではなく、老年病の予防・診断・治療にもつながります。

#### 老化脳神経科学研究チーム

「脳神経系に生じる障害を克服してサクセスフルエイジングを達成すること」を目的として研究を行います。自律神経機能、記憶神経科学の２テーマでは、基礎研究に加えて排尿障害や痛みの緩和、筋萎縮性側索硬化症や認知症などの研究を行い、臨床応用を目指しています。

#### 加齢変容研究チーム

加齢に伴い刻々と変化する臓器や組織の機能低下を細胞や遺伝子のレベルで明らかにして、からだ全体の老化、すなわち個体老化へと外挿します。そして、臓器や組織間の相互作用など、個体老化から見た新たな老化機構の解明や老化制御の達成を目指します。最終ゴールは、高齢者の健康増進、健康長寿に寄与することです。

#### 老年病理学研究チーム

病理学の知識と技術を基盤として、高齢者がんや精神・神経疾患に関した研究を行っています。センター病理診断科と共同し、臨床に近い医学生物学的研究や病理診断学的な研究も進めています。高齢者疾患の予防法、早期診断法を明らかにするとともに、新規治療法の開発を目指しています。

#### 神経画像研究チーム

ポジトロン放出断層撮影法（Positron Emission Tomography:PET）を使用し、老化や認知症等の加齢に伴う疾患、特に脳を中心とした研究を目的としています。薬剤開発から臨床まで、専門性の異なるスタッフで構成、センター内外の多くの研究者と幅広く連携、病院部門のPET診療を強力に支援しています。

### 社会科学系

#### 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム

多様な高齢者が、社会とのつながりや役割をもつことで、人生を楽しみ、持続可能な地域づくりに貢献できる社会の実現を目指し、社会参加・社会貢献とそれを支えるヘルシーエイジング（フレイル・認知症の一次予防）の推進、および社会関係の構築（孤立予防・多様な通いの場）に資する研究を行っています。

#### 自立促進と精神保健研究チーム

身体機能、口腔機能、認知機能、精神機能、社会機能の脆弱性を含むフレイルに対する介入プログラムの開発を進めるとともに、フレイルのリスク因子となる栄養状態への対策、地域包括ケアシステムやデメンシア・フレンドリー・コミュニティーの実現にフォーカスをあてて、認知症や障害の有無に関わらず、希望と尊厳をもって暮らすことができる社会の創出をめざした研究を行っています。

#### 福祉と生活ケア研究チーム

介護予防から医療、介護、エンドオブライフまで、生活機能が自立している高齢者、要支援・要介護状態にある高齢者、更には高齢者ケアに関わるすべての人々や組織を対象に、地域・居宅・施設における高齢者支援のあり方やケアの質の向上に資する研究を推進することで、Aging in Place実現に向けた研究を目指しています。







## 基本理念

東京都健康長寿医療センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のＱＯＬを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担います。

## 沿　革

東京都健康長寿医療センターは、1872（明治５）年に設立された、『養育院』の流れを汲む歴史ある組織です。1972（昭和47）年に一般都民に開かれた高齢者病院、老人総合研究所、一群の高齢者施設群として再出発し、今日の高齢化時代を先取りして活動を続けてきました。2009（平成21）年には、病院と研究所が一体化した地方独立行政法人として運営を開始し、2013（平成25）年春には新施設を建設、それぞれの時代の社会的要請に呼応して活動している施設です。

## 建物案内図







**交通** ●東武東上線大山駅　南口・北口より徒歩４分
●都営地下鉄三田線板橋区役所前駅　A3出口より徒歩11分


地方独立行政法人
**東京都健康長寿医療センター**
〒173-0015　東京都板橋区栄町35番２号
電話　03-3964-1141（代表）
ＵＲＬ https://www.tmig.or.jp/


HP　X（@tmghig）　YouTube（@tmigtube）


編集・発行　地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター　2026.06 Print